



平成28年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年3月7日  
東

上場会社名 株式会社アスカネット 上場取引所  
 コード番号 2438 URL <http://www.asukanet.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 福田 幸雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役CFO (氏名) 功野 顕也 (TEL) 082-850-1200  
 四半期報告書提出予定日 平成28年3月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年4月期第3四半期の業績 (平成27年5月1日～平成28年1月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年4月期第3四半期	3,851	2.9	602	11.2	605	10.8	397	0.4
27年4月期第3四半期	3,741	5.7	541	△6.9	546	△6.8	396	10.5
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
28年4月期第3四半期	23.74		23.54					
27年4月期第3四半期	23.66		23.37					

当社は、平成26年11月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。そのため、1株当たり当期純利益および潜在株式調整後1株当たり当期純利益の金額は、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して計算しております。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年4月期第3四半期	4,688		4,141			88.2
27年4月期	4,495		3,862			85.6

(参考) 自己資本 28年4月期第3四半期 4,134百万円 27年4月期 3,850百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年4月期	—	0.00	—	8.00	8.00
28年4月期	—	0.00	—		
28年4月期(予想)				9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年4月期の業績予想 (平成27年5月1日～平成28年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,422	8.9	728	14.1	732	13.8	481	13.4	28.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料4ページ「四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料4ページ「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

28年4月期3Q	17,464,000株	27年4月期	17,464,000株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

28年4月期3Q	673,341株	27年4月期	774,108株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

28年4月期3Q	16,752,184株	27年4月期3Q	16,745,892株
----------	-------------	----------	-------------

当社は、平成26年11月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。そのため、期末発行済株式数、期末自己株式数および期中平均株式数は、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して計算しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の数値は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注記事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和策を背景に、企業収益の改善や雇用・所得環境の持ち直しにより緩やかな回復基調で推移しましたが、一方で、中国経済を中心とした新興国の景気減退や原油価格の下落、円高の進行などの懸念から、先行きは予断を許さない状況となっております。

景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し遺影写真等画像映像のデジタル加工、通信出力サービスを主に提供するメモリアルデザインサービス事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するチャレンジングなビジネスであるパーソナルパブリッシングサービス事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指すエアリアルイメージング事業、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

このような状況のもと、既存事業での着実な成長と、新規事業への先行投資のバランスに配慮して、事業を推進してまいりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部売上高を含んでおります。

## (メモリアルデザインサービス事業)

当事業におきましては、第3四半期会計期間におきまして、暖冬の影響により葬儀施工件数が例年より減少したため、遺影写真加工収入が想定を下回りました。それに伴い、サプライ品や額の売上も伸び悩みましたが、ハード機器売上や動画など葬儀演出関連売上は伸長しました。

利益面におきましては、経費の適切なコントロールに努めてまいりましたが、相対的に利益率の高い遺影写真加工収入が伸び悩んだため、セグメント利益も想定を下回り、前年同四半期並みとなりました。

その結果、売上高は1,723,869千円(前年同四半期比101.4%)、セグメント利益は557,054千円(前年同四半期比99.9%)となりました。

## (パーソナルパブリッシングサービス事業)

当事業におきましては、プロフェッショナル写真市場では、自社営業による、主力製品「ZENレイフラット」に加え新製品の拡販に取り組みとともに、テンプレートの追加や発注ツールの機能強化なども行ってまいりました。その結果、プロフェッショナル写真市場向け売上は順調に推移しました。

一般消費者市場では、キャンペーンでの販促や企業とのタイアップによるサービスの提供を強化してまいりました。また、スマホから発注できる「MYBOOK LIFE」のリリースに向け準備してまいりました。競争環境が厳しい中、写真愛好家やこだわり層へ重点的にアプローチしてまいりましたが、一般消費者市場向けの売上は想定を下回りました。また、OEM提供につきましては、本格稼働後、各種施策の実行により注文は増加しておりますものの、売上は想定を下回っております。

利益面につきましては、OEM供給体制の立ち上げに伴って、人件費、地代家賃などが増加しておりますものの、生産効率の向上や効率的な広告宣伝の実施に努めており、セグメント利益は着実に伸長いたしました。

その結果、売上高は2,085,950千円(前年同四半期比104.5%)、セグメント利益は437,119千円(前年同四半期比105.9%)となりました。

## (エアリアルイメージング事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指し、平成23年3月に開始した事業であります。

当事業におきましては、空中結像を可能にするAIプレートの量産化を最重要課題として取り組んでおります。

ガラス製プレートにつきましては、すでにある程度の量産体制は確立しておりますが、さらなる品質の改善、歩留まりの向上に向け取り組んでおります。特に、CEATEC以降、多くの引き合いをいただいておりますが、まだ、価格がこなれていないことや、大型プレートへの要望などにより、限られた用途での売上にとどまっているのが現状であります。現在、大型化に向けた試作も並行して進めております。

樹脂製プレートにつきましては、新製法とガラス製の生産方式と同様の手法の双方でトライしております。新製法につきましては、想定より技術的課題の難度が高く、解決に時間を要していることは、反省材料として受け止めております。最大の課題であります鏡面加工(蒸着)の工程におきまして、まだ満足できる品質が実現しておりま

せんが、方向性には問題がないと考えていますので、トライを継続しているところです。また、ガラス製の生産方式と同様の手法による樹脂製プレートにつきましては初期試作品を製作いたしました。素材の性質上、小型プレートになりますが、一定の評価を得ており、より結像品質を向上すべく改善を進めているところです。既存のガラス製プレートの生産とは別のルートで並行して進行しております。

マーケティング面につきましては、CEATEC以降多くの注目をいただき、さらに約30社の企業等へ納品しておりますが、価格、サイズ、量におきまして十分にマッチしておらず、少ロットでの注文にとどまっております。このような状況に加え、当初の想定より量産が遅れたことから、売上は想定を下回って推移しております。現在は、引き合いへの対応と並行して、ある程度での価格帯でも導入いただける見込みのある用途や市場を絞って営業活動を行い、中ロットでの受注につなげたいと考えております。樹脂製プレートにつきましても初期試作品によりマーケティングを開始しております。

また、営業を増員したほか、積極的に特許の申請、取得も進めており、費用は増加いたしました。

その結果、売上高は40,225千円(前年同四半期比89.2%)、セグメント損失は64,457千円(前年同四半期は61,060千円の損失)となりました。

(その他)

「ギフトネットコム」は平成27年10月末をもってサービスを終了いたしました。

その結果、粗利ベースでの手数料収入は1,607千円(前年同四半期は503千円)、セグメント損失は16,176千円(前年同四半期は47,271千円の損失)となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は3,851,521千円(前年同四半期比102.9%)となり、利益面につきましては、メモリアルデザインサービス事業が暖冬の影響もあり、前年同期並みにとどまったものの、パーソナルパブリッシングサービス事業では売上増に伴い順調に利益が増加するとともに、経費を適切にコントロールしたことにより、経常利益は605,096千円(前年同四半期比110.8%)となりました。また、前年同四半期に水害の発生に伴う受取保険金77,819千円を特別利益として計上したことの反動により、四半期純利益は397,686千円(前年同四半期比100.4%)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ192,614千円増加し、4,688,426千円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が148,891千円、商品及び製品が43,081千円それぞれ増加したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ86,425千円減少し、546,923千円となりました。これは主に、賞与引当金が56,100千円減少したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ279,039千円増加し、4,141,503千円となりました。これは主に、剰余金の配当として133,519千円計上した一方で、四半期純利益を397,686千円計上したことによるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年6月9日に発表いたしました平成28年4月期業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社は有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法について、従来、定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)を採用していましたが、第1四半期会計期間から定額法へ変更しております。

この変更は、当事業年度からフォトブック等のOEMによる提供を本格的に開始するにあたって、多額の設備投資が必要となることを契機に、有形固定資産の減価償却方法について改めて検討した結果、当社の有形固定資産は長期安定的に使用されており、その資産価値は均等に減価することが見込まれるため、減価償却費を每期均等化して計上する定額法の方が使用実態をより適切に反映するものと判断するに至ったものです。

この変更に伴い、従来の方と比較し、当第3四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益はそれぞれ75,450千円増加しております。

なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成27年4月30日)	当第3四半期会計期間 (平成28年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,710,536	1,668,913
受取手形及び売掛金	564,897	713,789
商品及び製品	77,197	120,278
仕掛品	14,747	11,993
原材料及び貯蔵品	44,811	47,742
その他	91,857	135,702
貸倒引当金	△3,203	△5,080
流動資産合計	2,500,846	2,693,339
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	524,783	521,890
機械及び装置(純額)	391,648	432,164
土地	432,702	432,702
その他(純額)	229,282	190,166
有形固定資産合計	1,578,416	1,576,923
無形固定資産	178,524	182,457
投資その他の資産	238,025	235,705
固定資産合計	1,994,966	1,995,086
資産合計	4,495,812	4,688,426
負債の部		
流動負債		
買掛金	100,169	101,708
未払法人税等	105,364	114,047
賞与引当金	118,400	62,300
その他	301,364	262,232
流動負債合計	625,298	540,289
固定負債		
退職給付引当金	6,795	6,634
その他	1,254	—
固定負債合計	8,050	6,634
負債合計	633,348	546,923
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	606,585	606,585
利益剰余金	2,995,777	3,252,614
自己株式	△264,931	△230,479
株主資本合計	3,827,730	4,119,019
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	22,420	15,150
評価・換算差額等合計	22,420	15,150
新株予約権	12,312	7,332
純資産合計	3,862,463	4,141,503
負債純資産合計	4,495,812	4,688,426

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成26年5月1日 至平成27年1月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年5月1日 至平成28年1月31日)
売上高	3,741,752	3,851,521
売上原価	1,814,306	1,881,927
売上総利益	1,927,446	1,969,593
販売費及び一般管理費	1,386,054	1,367,535
営業利益	541,392	602,058
営業外収益		
受取利息	1,216	1,438
受取配当金	894	1,095
受取手数料	438	516
為替差益	885	—
その他	1,358	624
営業外収益合計	4,792	3,674
営業外費用		
為替差損	—	635
営業外費用合計	—	635
経常利益	546,184	605,096
特別利益		
受取保険金	77,819	—
特別利益合計	77,819	—
特別損失		
固定資産除却損	392	1,323
特別損失合計	392	1,323
税引前四半期純利益	623,611	603,772
法人税等	227,429	206,086
四半期純利益	396,182	397,686



## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 平成26年5月1日 至 平成27年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアル イメージ ング事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,699,273	1,996,894	45,081	3,741,249	503	—	3,741,752
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	64	—	64	—	△64	—
計	1,699,273	1,996,959	45,081	3,741,314	503	△64	3,741,752
セグメント利益又は損失 (△)	557,633	412,572	△61,060	909,145	△47,271	△320,481	541,392

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「ギフトネットコム」サービスであります。

2 セグメント利益の調整額△320,481千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

3 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期累計期間(自 平成27年5月1日 至 平成28年1月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッ シングサ ービス 事業	エアリアル イメージ ング事 業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,723,869	2,085,818	40,225	3,849,913	1,607	—	3,851,521
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	132	—	132	—	△132	—
計	1,723,869	2,085,950	40,225	3,850,046	1,607	△132	3,851,521
セグメント利益又は損失 (△)	557,054	437,119	△64,457	929,716	△16,176	△311,481	602,058

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「ギフトネットコム」サービスであります。

2 セグメント利益の調整額△311,481千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

3 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、当社は有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法について、従来、定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)を採用していましたが、第1四半期会計期間から定額法へ変更しております。

この変更に伴い、従来の方法と比較し、当第3四半期累計期間の「メモリアルデザインサービス事業」のセグメント利益が1,701千円増加、「パーソナルパブリッシングサービス事業」のセグメント利益が69,065千円増加、「エアリアルイメージング事業」のセグメント損失が1,044千円減少、「その他」のセグメント損失が89千円減少、「調整額」のセグメント損失が3,550千円減少しております。